

製品名: Topo II β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19130**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	183kDa

抗原情報

遺伝子名	TOP2B
別名	TOP2B; DNA topoisomerase 2-beta; DNA topoisomerase II; beta isozyme
遺伝子 ID	7155.0
SwissProt ID	Q02880
免疫原	抗血清はヒト TOP2B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

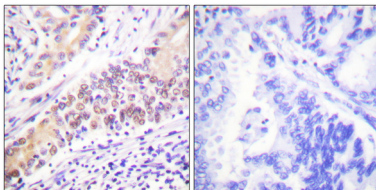
この遺伝子は、転写中の DNA のトポロジー状態を制御・変化させる酵素である DNA トポイソメラーゼをコードしています。この核酵素は、染色体の凝縮、染色分体の分離、DNA の転写および複製中に生じるねじれ応力の緩和などのプロセスに関与しています。こ

の酵素は、二本鎖 DNA の 2 本の鎖の一時的な切断と再結合を触媒し、鎖が互に通ることを可能にすることで、DNA のトポロジーを変化させます。この酵素には、遺伝子重複イベントの産物として 2 つの形態が存在します。この形態をコードする遺伝子 (ベータ) は 3 番染色体に、アルファは 17 番染色体に局在しています。この酵素をコードする遺伝子は、いくつかの抗がん剤の標的として機能し、この遺伝子の様々な変異は薬剤耐性の発現と関連付けられています。この酵素の活性が低下すると、ATP 依存性二本鎖 DNA の切断、通過、再結合といった酵素活性も低下する可能性があります。機能: DNA 鎖の一時的な切断とそれに続く再結合によって DNA のトポロジカル状態を制御します。トポイソメラーゼ II は二本鎖切断を引き起こします。機能: DNA 鎖の一時的な切断とそれに続く再結合によって DNA のトポロジカル状態を制御します。トポイソメラーゼ II は二本鎖切断を引き起こします。ビタミン D 受容体 (VDR) によってリクルートされるクロマチンリモデリング複合体である WINAC 複合体との関連を介して、ビタミン D 共役転写制御に間接的に関与し、CYP27B1 遺伝子のリガンド結合 VDR 媒介トランスクリプションに必要です。その他: 真核生物のトポイソメラーゼ I および II は、負のスーパーコイルと正のスーパーコイルの両方を緩和できますが、原核生物の酵素は負のスーパーコイルのみを緩和します。PTM: おそらく ATM または ATR によって DNA が損傷するとリン酸化されます。類似性: II 型トポイソメラーゼファミリーに属します。サブユニット: ホモ二量体。WINAC 複合体の構成要素であり、少なくとも SMARCA2、SMARCA4、SMARCB1、SMARCC1、SMARCC2、SMARCD1、SMARCE1、ACTL6A、BAZ1B/WSTF、ARID1A、SUPT16H、CHAF1A、および TOP2B から構成されます。

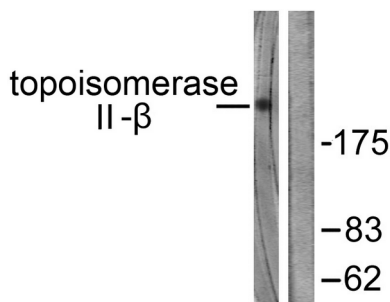
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、染色体構造、足場タンパク質、DNA/RNA、DNA 合成、トポイソメラーゼ、がん、薬剤耐性

画像データ



TOP2B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



TOP2B 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。